

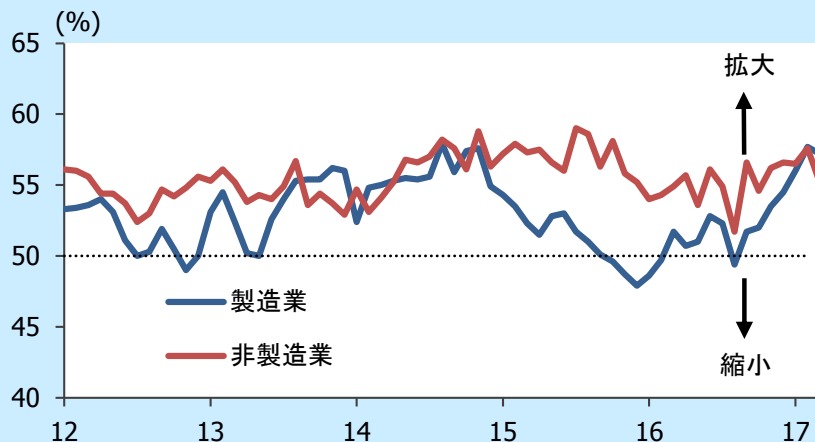
米国：ISM景況指数（2017年3月）

一企業の景況感は高水準を維持一

MRI Daily Economic Points

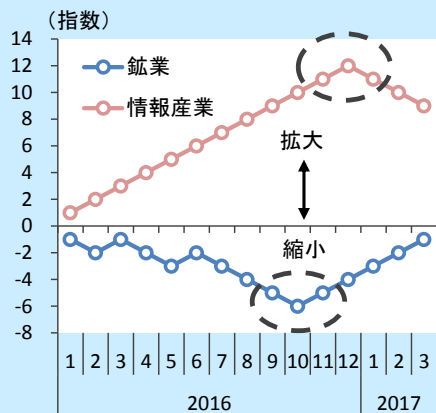
April 6, 2017

図表1 総合指数



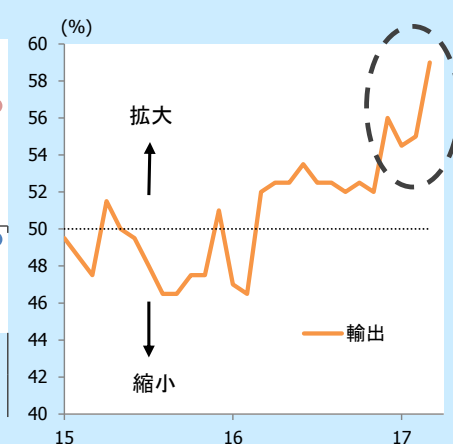
出所：米供給管理協会

図表2 業種別の景況感 図表3 製造業のISM輸出指数



注：拡大=1、縮小=-1、変化なし=0として各業種ごとに16年1月以降の景況感を累積して算出。

出所：米供給管理協会



出所：米供給管理協会

評価ポイント

今回の結果

- 3月のISM製造業景況指数(総合、4/3公表)は、57.2と前月(57.7)から小幅低下したものの、高い水準を維持した。
- 項目別にみると、生産(57.6)が大きく低下した一方、新規受注(64.5)は高水準を維持。雇用(58.9)も大幅に上昇し、2011年6月以来の水準まで回復した。業種別では、18業種のうち17業種が50を上回り、2ヶ月連続でほぼ全ての業種で活動が拡大。企業活動が縮小した業種数はゼロであった。
- 3月のISM非製造業景況指数(総合、4/5日公表)は、55.2と前月(57.6)から低下したものの、高い水準で推移している。
- 項目別では、ビジネス活動(58.9)が高水準を維持したものの、大きく低下。雇用(51.9)は労働需給の逼迫もあって、50付近にまで低下した。業種別では、15業種が50を上回り、幅広い業種で活動拡大が継続。原油価格の安定化やトランプ新政権による規制緩和への期待などから、鉱業が16年11月以降、50を上回っている(図表2)。一方、トランプ大統領が主張する移民規制の強化が懸念される情報産業は、3ヶ月連続で50を下回った。

基調判断と今後の流れ

- 製造業は、①世界経済の持ち直しによる輸出の改善(図表3)や、②国内における消費の堅調、③トランプ新政権の経済政策への期待などから、景況感が回復。非製造業も、堅調な内需を背景に良好な景況感が続いている。
- 先行きも、堅調な内需に支えられ、企業活動の拡大基調が続くと予想する。3月は製造業の生産、非製造業のビジネス活動が大幅に低下したが、企業活動の先行指標である新規受注は高水準であり、一時的な低下であろう。
- 下振れ要因として、新政権の政策動向が注目される。これまで減税やインフラ投資などへの期待もあって景況感は回復してきたが、3月にオバマケア代替案の採決が断念され、新政権が議会と調整できるのか疑問視する声が高まりつつある。政策実現が遅れる場合、景況感が悪化しかねない。